# 第十一回シンポジウムの開催にあたって

中国第一歴史檔案館副巡視員　呉　元豊

尊敬する専門家、研究者の皆様
尊敬するご来場の皆様
こんにちは！

本日、皆様が一同に会し、「第十一回琉球・中国交渉史に関するシンポジウム」が開かれます。シンポジウムの開幕にあたりまして、国家檔案局副局長兼中国第一歴史檔案館館長胡旺林ならびに中国第一歴史檔案館の全職員を代表し、シンポジウムの開催を心よりお慶び申し上げます。またここにお集まりの古い友人の方々、初めてお会いする方々にご挨拶申し上げます。

光陰矢のごとし、と申しますが、中国第一歴史檔案館と沖縄県教育委員会の学術協力もすでに二十五年となりました。一九九一年、我々が初めて学術交流に関する協議書に調印して以来、中国第一歴史檔案館と沖縄県の協力の下、双方の多くの専門家や研究者の積極的な参加と献身的な働きを通して、檔案史料の発掘・整理はもとより、学術研究の領域においても注目を浴びる成果を上げてきました。

中国第一歴史檔案館所蔵の一千万件余りの清代の公文書のうち、四千件近くの中琉関係檔案が次々と

発掘・整理され、沖縄県教育委員会に提供したマイクロフィルム以外でも、前後して清代中琉関係檔案史料三十八冊を編集・出版してきました。これらの檔案史料の編集・出版は学界に精確かつ系統的な一次史料を提供し、中琉関係史のより詳細な研究に寄与し、新しい研究領域を開拓しました。また同時に、沖縄県教育庁文化財課史料編集班の『歴代宝案』編集に、貴重な参考資料を提供することで作業の質を向上させることにも役立ってきました。

双方で調印された協議書の規定により、二～三年に一度、交互にシンポジウムを開催してきました。今まで十一回行われた中で専門家や研究者が提出した論文は七〇篇余り、第一回～十回までのシンポジウム発表論文は沖縄県教育委員会の編集により『シンポジウム論文集』十冊として出版されています。シンポジウムの開催と『論文集』の出版は中琉関係史研究を推し進めるのみならず、さらに双方の人的学術交流を深め、学術研究チームを大きく育てて参りました。本学術シンポジウムは、我々双方にとって学術交流の重要なプラットホームとなっており、ますます学界の関心を集め、重視されるものとなっております。

私は満文檔案に携わる者の一人として、光栄にも、一九九五年沖縄で開催された第三回シンポジウムを始まりとして、第三回から第八回および今回、と合計七回のシンポジウムに参加し、満文檔案に重点を置いた学術論文を七篇発表して参りましたが、シンポジウムでの交流で得たものは少なくありません。このように参加しやすい形での学術交流のプラットフォームがあったお陰で、私は中琉関係史の研究領

域に足を踏み入れる機会を持つことができたと言えるでしょう。そしてこの相互交流のプラットフォームの場を利用して、自分自身の学術研究の水準と能力を高め、予想以上の研究成果を上げることができました。私は今後もこの学術シンポジウムの開催と『シンポジウム論文集』の編集・出版が滞りなく続き、これからも変わらず学界と研究者に相互交流のプラットフォームの場を提供し、中琉関係史研究を推し進めていくことを切に願います。

今回のシンポジウムでは、中国第一歴史檔案館から四篇の論文を提出しました。伍媛媛女史の「明清期中琉交流の特設機関—福州柔遠駅」、王金龍氏の「道光・咸豊期における英仏人の琉球逗留と交渉問題について」、張小鋭女史の「内務府『奏銷檔』の中琉関係檔案に関する試論」、そして私の「清初における琉球国王舅馬宗毅の清朝派遣とその意義」です。これら四篇の論文で、主に本館が所蔵する満文・漢文檔案及び沖縄県教育庁史料編集班が編集・出版している『歴代宝案』をもとに、また他の関係資料も参考にして、中琉歴史関係に関する問題やその檔案について、意義のある検討や意見を述べ、ご来席の専門家の方々、研究者の皆様方に討論と交流の場を提供したいと思います。

最後に、今回の琉球・中国交渉史に関するシンポジウムの成功をお祈りして、私の挨拶といたします。ありがとうございました。

二〇一五年十一月十四日

（翻訳　野村直美）